別紙

令和８年度校区まちづくり交付金　交付決定助言書
【大正北小学校区まちづくり協議会】

〔交付決定にかかる条件〕

※下記に記載の〔交付決定にかかる条件〕については、年度内の活動の中で実践や実施に向けた検討を進めてください。その実績や検討状況については、実績報告書に記載いただき、ご報告ください。

〇チャレンジメニュー①：1-①「自助」の取り組みの定着・促進

・校区全体を対象とされていますが、参加想定が 200 名となっています。より多くの人を巻き込む工夫についてご検討ください。幼児のいる家庭、若年世代、高齢者など対象を細分化し、それぞれの世代に合わせて訓練の内容を工夫する等もいいかと思います。

・自助、共助の推進については、年１回の取り組みだけでなく日頃から SNS を用いた防災に関する情報発信を行うなど、相乗効果により参加人数が増えるような取り組みについてご検討ください。

・自助共助がどれだけ住民の間で定着したかを測る指標のために、振り返りのためのアンケートの実施についてご検討ください。

〇チャレンジメニュー②：2-③団体に属さない人の参画促進

まち協のあり方を考える検討会、対話集会のようなものを起こし、そこに無作為抽出で選んだメンバーに入ってもらうなど、まずはゆるいカタリバのようなものから、新規参画を促していく等の工夫について、ご検討ください。

〇チャレンジメニュー③：3-①ホームページやインスタグラムや X など SNS の導入

・X などで発信・報告し、フォローを伸ばすためには、コンテンツに魅力が必要です。魅力あるコンテンツ作りのために、外部の大学生や高校生など、若者との連携についてご検討ください。

・SNS での告知や報告について、全ての取り組みでの活用をご検討ください。
その際は、検討組織の立ち上げや役員会での検討等、体制も含めて全体に広げることも手法の一つとしてご検討ください。

〇チャレンジメニュー④：3-③若い担い手確保・参画促進

子どもにも企画段階から参加してもらうことで、保護者の参加につながると思います。さらに、現在中心となっている団体に加えて、もう少し幅を広げた参加促進の工夫についてご検討ください。

〇取り組み①：AED の維持管理

AED の維持管理についてのお知らせは、イベント参加者だけでなく、全住民に周知することが大切です。イベントで告知する場合は全てのイベントでの周知、加えて掲示板での常設、

別紙

SNS による定期的な情報発信など、多角的な広報手法についてご検討ください。

〇取り組み⑦：地域名所巡り

・2025 年度の大正北小の児童数は 439 人、参加予定数が 500 人とのこと、児童とその保護者の参加が想定されます。地域の名所巡りとガイドについて、興味を持った保護者にもガイド役を引き受けてもらい、新たな担い手となれるような工夫についてご検討ください。

・冊子について、改訂版などの検討の際には、親子の意見も取り入れられるような機会を設けることについてご検討ください。

〇取り組み⑧：まち協運動講座

２つのまち協で共催されていますが、年１回の開催であることや参加者数を考えると少ないように思われます。住民の健康増進により寄与できる事業とするため、事業の目的、目標、成果について改めて検討し、可能であれば今年度から改善を開始することについてご検討ください。あわせて、幅広い広報手法についてもご検討ください。

〔今後の活動にかかる助言〕

※下記に記載の〔今後の活動にかかる助言〕については、まち協活動でご活用ください。こちらの項目については、実績報告の際の実施状況等のご報告は不要です。

〇取り組み⑥：こどもカーニバル

良い企画だと思いますが、プログラムと目的とが合致しているのかがわかりにくい部分があるため、プログラム内容を計画書にもう少し詳しく記載することで趣旨等がより伝わりやすくなるかと思います。ご検討ください。

〇「チャレンジメニュー②：2-③団体に属さない人の参画促進」にも記載しましたが、まちづくりの中で”ゆるく”つながる仕掛けが重要だと思います。以下の取り組みなどを参考にご検討ください。

chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2025/final/presentation/061_presentation.pdf

〇全体を通して

・担い手の確保にかかるチャレンジメニューを複数実施されていますが、単体の取り組みとしての実施だけでなく、チャレンジメニュー③の助言と同様、担い手確保戦略会議のチームを作ってみるなど、大正北まち協全体の取り組みとしてもご検討ください。その際は、スケジュール感を持って臨むことが大切です。